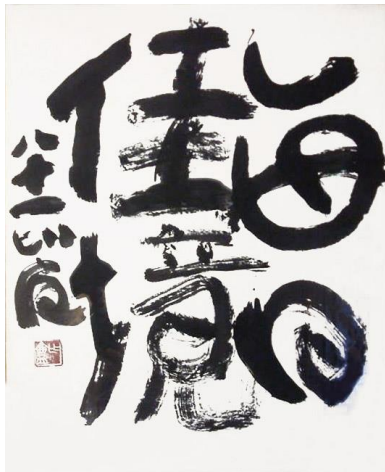


比庵佳境の会

富士の山見ゆるところにをる人はあした夕べにたのしかるべし

比庵八十九



毎日佳境 八十一 比庵 昭和38年(1963年)

ご挨拶 比庵佳境の会



横浜の自宅にて

会長 清水 固

「比庵佳境の会」の皆様！
佳境の会会報第一号発行にあたって一言御挨拶いたします。

一月下旬の「墨の美術館」での比庵富士展を前に結成した当会は四月末で総勢七十人になりました。比庵富士展はいわゆる比庵晴れにも恵まりましたが、美術館が未完成であったにも拘わらず皆様の厚いサポートのおかげで一週間で四百人の参観者があり、盛況裏に終了できました。心から御礼申し上げます。

このように順調なスタートを切った「比庵佳境の会」ですが、今後は①作品展の参加及び開催②比庵の足跡を訪ねる企画③広報発行などを考えております。今回がその広報の第一号ですが、次のような内容で年二回程度の発行を考えていますのでご期待下さい。

・比庵の足跡紹介

(比庵のホームページ抜粋など)

・実施された行事や最新のニュース紹介

・計画されている行事案内

・会員の皆様の寄稿募集

(応募を期待しています。)

今後とも宜しくお願い申し上げます。

比庵展の感想を絵手紙で

比庵展を見て 心はれ晴れ

日本絵手紙協会公認講師
NHK学園生涯学習絵手紙

講座専任講師

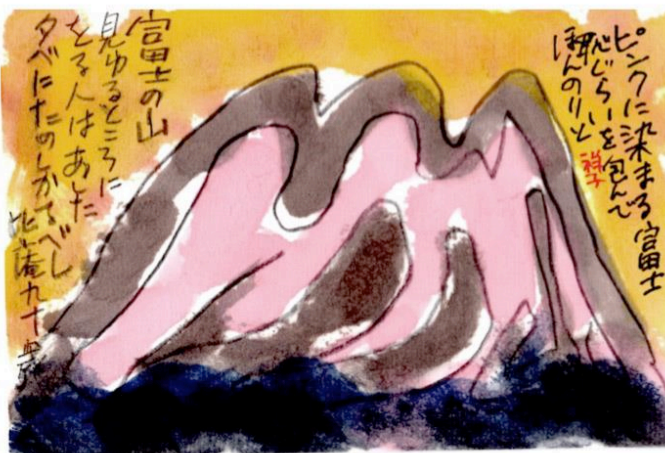


阿部祥子

墨美術館の開館おめでとうございます。開館一回目が「比庵富士展」ということで横浜の地で比庵さんの作品を拝見することができ、とてもうれしく思いました。柔らかい春の目が差し込み、木の香りがブーンとする清々しい中で比庵富士は、晴々としてみんなを明るくしてくれました。まさに「比庵晴れ」の日でした。

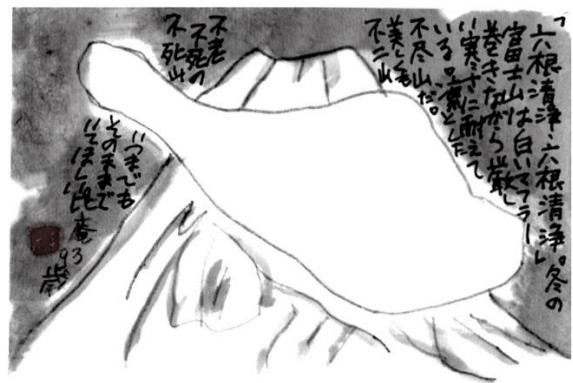
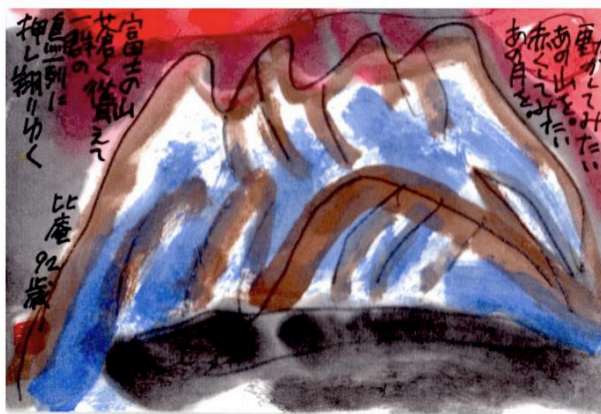
作品は、どれも雄大で懐が深く私たちを包んでくれます。そんな中にどこか柔らかいやさしい色が見えてあたたかいお気持ちを感じました。

いつも作品の前に立つと、滲刺とした筆遣い、色遣いを身近に感じ、大きな心



の息使いまで伝わってきて、豊かな気持ちになります。そんな比庵さんの作品に触れることで、自分の世界を見つめることへの模索になります。

絵手紙を趣味としている私たちにとっては、比庵さんは絵と字と言葉の三つをハガキにかくということを示してくださった大恩人です。未熟な私たちがすがこれからも勉強させていただきたいと思えます。



墨の美術館

開館記念に清水比庵・富士展を開催

館長 濱崎道子

横浜青葉台の住宅街の一角に、小さな「墨の美術館」がオープンしました。永年住み慣れた自宅を、展示空間兼コミュニティの場として活用できればと思い改築したものです。

今年には清水比庵生誕一三〇年を迎え、また、富士山が世界遺産に登録されたのを機に、二〇一四年一月二三日〜二九日の日程で、「墨の美術館」開館記念「清水比庵・富士展」を開催しました。この展覧会は、比庵が生前に叶わなかった富士山だけの展示ということもあり、故郷の岡山県高梁市文化交流館、竹喬美術館、吉備路文学館、ワココミュニケーションや、普段は見るこ

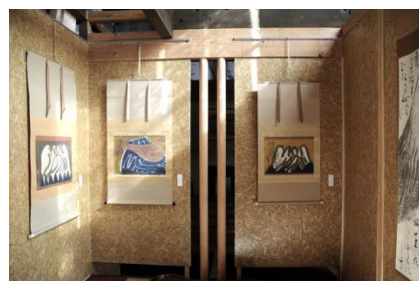


墨の美術館入り口

出来ない比庵コレクターのご協力を頂き、書画、茶碗作品等十数点に併せ、比庵が唯一制作をまかせた窓日彫りの座卓やお盆も展示しました。

美術館の完成が遅れ建築半ばでの展示となりましたが、比庵芸術を身近に鑑賞して頂くことが出来ました。遠くは高松から、震災で福島から横浜に移住している方、そして、近くの施設の方々等大勢来館下さり、連日参観者で賑わいました。「比庵佳境の会」の方には大変お世話になりました。特に会長の清水固氏（比庵孫）によるギャラリートークが好評で、比庵ファンを多いに喜ばせました。

「墨の美術館」の建築は、二〇一三年七月に始まりました。設計は建築家・高崎正治先生にお願いしました。先生は世界的に活躍され、二〇一四年のビエンナーレの招待作家です。二〇一一年三月には、東日本大震災復興建築プロジェクト「物こそ人なれ」(こころシェルター)を立ち上げ、日常生活で大自然や精神世界と向き合い、生きる原点を見つめる住まいを、原発二三〇圏周辺の避難所で具現化されました。



比庵富士展会場風景

「墨の美術館」には狭いながら、茶室・床の間・縁側・中庭・池などがあり、昔から伝わる日本の精神文化を取り込んだ造りになっています。玄関を入ると心柱の立つ「墨の間」が在り、回廊を回りながら「墨の座」「茶室」「墨の室」へと誘われます。北回廊から東回廊に出た所で罫り口を潜り茶室に入り、そこから、光と風を取り込んだピオトープの上にある「内坪堂」に出ます。建築は全て宮大工さんの手作りで、完成にはもう少し時間がかかるようです。

今後「墨の美術館」は、比庵展初め様々なジャンルの作品展示や、地域に根ざしたコミュニティの場として、幅広く活用して頂きたいと思っております。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

比庵先生との関わりは、大学時代に講演を聴くことに始まり、比庵主宰の短歌雑誌「窓日」に入会、比庵の芸術境に傾倒する。比庵没後は比庵長女・明子様のご教示を頂きながら、『清水比庵歌碑拓本集』『毎日佳境・清水比庵窓日彫拓本集』を刊行、拓本展を開催する。近年、日本橋・小津ギャラリー、青梅・玉堂美術館、調布・深大寺での「清水比庵展」に関わっている。



中国武術健身協会の仲間と

比庵あれこれ

比庵の晩年 清水 固

私は今年八十二歳になったが、祖父清水比庵の八十歳代からの生き様（芸術活動）を眺めてみると我が身との格差があまりにも大きいことに驚嘆している昨今である。多くの人は人生のピークは最晩年より若い時期だが、比庵は晩年に次のような新しい事を始めており、そのピークは最晩年の九十歳代であった。

一 紅をもて

・くれなるの絵具を多く持ちてありくれなるをもて老いを描くと

これは七十六歳の新年詠で、「今年の抱負であり自分の老いの解釈でもある」と書いてい



浅間山
真赤に塗りし
梅原の
畫を見て
われは
この山を
恋す
八十一
比庵



竹やぶの
中にて鳴ける
うぐひすの
梅の枝には
いまだ
来たらす
比庵
九十三

る。

八十七歳の時出版した随筆集には「紅をもて」と命名し、くれなるを入れた歌やくれなる色の書・画も多い。

- ・年明けて八十八歳すこやかに柳はみどり花はくれなる
- ・花を画く赤きがよろし花を画く恋をえがくが如くなるべし
- ・生れ日を照らして花の天地とくれなる比庵満九十二歳

二 作品に制作年令を付記

(七〇代半ばから)

比庵は佐藤一斎の言志晩録・三学戒を書にしているが、「その言葉のなかで大事なところは



富士の山
見ゆる
ところに
をる人は
あしたタベに
たのしかるべし
九十
比庵

三 富士山の画は八十歳から

比庵は有名な邦楽家に勧められて八十歳から本格的に富士山を画き始め、私が確認しただけで五十点以上あるので実際ははるかに多く画いていると思われる。「比庵富士」として「比庵雀」と共に有名で人気が高い。各地で開催された比庵作品展には必ず比庵富士が含まれているが、特に九十歳代のものが多く、「くれなる比庵」を象徴する赤富士も含まれている。

老いて衰えずであり、そのためには益々勉強して長生きして……となると結局長生きが勝負という事になる」と書いている。
このような背景から比庵が作品に年令を記入するようになったと思われる。



この年の中秋無月朝晴れて
大きく沈む月を見てをる

比庵

四 線画の絵手紙（八十四歳から）

比庵は学生時代から絵手紙を多く画いているが、八十四歳でミロの作品にヒントを得て線と点と十字を組み合わせた抽象画を絵ハガキに書き始めた。線は動、点は静、十字は迷いと説明しているが「これに一首の歌を題することで美しい作品になるような気がする」と書いている。

一方比庵の日常生活は

- ① 無理をしない
- ・ 年よりは膚はよほど若しとぞ恋も出世も無理をせざれば
- ② 毎日佳境をモットー
- ③ ありがたや、ありがたやで過こし、自分と妻の墓石に生前「まどかなる夢をむすぶといふことはいかにまどげきものにあるかも」と刻している通り、理想的な「まどかなる老いの人生」を送った

と思っている。

・ 花開いて風雨多し人老いて楽しみ少なしとはいはな
くに



比庵佳境の会からのお知らせ

- ① 岡山市吉備路文学館の比庵展
- ② 深大寺訪問 一〇月二八日（火） 隣の神代植物公園バラ園めぐりと併せて 詳細は会報2号に記載 皆様のご参加期待
- ③ 日光小杉放菴美術館で放庵・比庵展二七年一月一日〜二月一日
- ④ 書道藝術社「日本書法朱夏蒼峰号」に比庵特集

追記・比庵佳境の会会員で二六年度会費未納の方は下記に納入お願いします。

一口1,000円（複数口歓迎）
三井住友銀行鶴見支店 普通 7061558
名義・クボタノブユキ

書道藝術社「日本書法 朱夏蒼峰号」（六月
中旬発売）に清水比庵生誕一三〇年特集を掲
載。

比庵のふるさと吉備路文学館、源吉兆庵美術館、小杉放菴記念日光美術館そして遠山記念館などの展示作品の見所やエピソードなど、今年から明年にかけて比庵に出逢う美術館への旅をご紹介します。

吉備路文学館にて特別展「清水比庵展」開催

二〇一四年七月八日（火）〜一〇月五日（日）

期間中の七月一三日（日）一三時三〇分〜一五時に清水固氏が記念講演会「祖父・比庵と母・明子を語る」を開催します。

「吉備路文学館」は、岡山駅から北へ徒歩約一五分、岡山市の閑静な住宅街に位置している文学博物館です。吉備路ゆかりの文学者の著書、原稿、書簡などの文学資料を収集・研究・展示し、一九八六年（昭和六一年）秋に開館しました。

清水固氏の記念講演に合わせて、吉備路文学館を訪れる旅を企画します。参加ご希望の方は、事務局までご連絡ください。



吉備路文学館外観

比庵佳境の会

会長 清水 固（清水比庵の孫）
〒247-0022 横浜市栄区庄戸3-5-18
TEL&FAX 045-893-8932

事務局 村上信行
〒247-0022 横浜市栄区庄戸4-15-4
TEL&FAX 045-894-5446